



## 海外から 研修員に聞く



オウ シュンライ  
**王 春雷さん**  
中華人民共和国 黒竜江省

Mr. Wang Chun Lei  
黒竜江省労働組合国際連絡部に勤務。  
平成17年度北海道協力交流研修員として、北海道経済部  
商業経済交流課で研修中(2005年7月7日~11月20日)

### ▶ 当年22歳、若さ真っ盛り

5月に22歳になったばかりという王さん、身長185cm、がっしりした体格で、大学ではバスケットボール、サッカーなどをしてきた。卒業して黒竜江省労働組合国際連絡部に入って2年目、省内の労働組合の対外交流や海外からの来訪者の接待、外国企業への研修者の派遣や合弁企業の設立などを担当している。

来道前、滋賀県の研修センターで日本語の特訓を受けてきた。「大勢の中国からの研修生と一緒にだったので、いよいよ全国各地の研修先に離ればなれになる時はものすごく不安でした」と、大きな身体をすぼめるようにしてその時の気持ちを表現してくれた。現在、北海道庁の商業経済交流課で研修に励んでいる。

### ▶ 北海道と黒竜江省の交流

黒竜江省は中国で最も北に位置する省で、人口3800万人(2004年)、面積45.4万平方キロメートルと広大である。省都ハルビン市のほかにチチハル、牡丹江、チャムスなど。

北海道と中国黒竜江省は1986年6月に友好提携(友好省道)に調印し(時に王さん満3歳)、これまで相互訪問を重ねるなど交流を深めてきた。2001年には友好提携15周年を祝った。

省面積の42%は森林に覆われ、森林面積、木材生産量は国内一を誇る。有名な大慶油田など石油・天然ガスを多く埋蔵するなど天然資源も豊富である。

恵まれた自然の中でヒョウ、トラ、鹿など野生生物が数多く生息し、保護に力を入れている。鳥類も多くタンチョウヅル棲息地やタイガーパークなどは冬の氷雪観光とあわせて観光資源にもなっている。

### ▶ 今回の研修の目的は

王さんは大学では法務を学んだが、今は経済に関心がある。「北海道と黒竜江省は自然環境や産業面で似ている点がたくさんあります。北海道の経験を参考にしたいです」と、北海道の産業構造、経済分野の国際化や貿易実績などについて勉強している。「帰国後は、黒竜江省の経済振興と対外交流に役立てたい」と研修一筋で忙しく過ごしているが、道内各地の見学や市民との交流などを通して北海道への理解を深めたいと希望している。

「日本語を上手になりたいです。日本語を勉強し始めたのは昨年6月と聞いたが、周囲の話ではたいへんな上達ぶりだそう。ポケットサイズの電子中日辞典を片手にわからない単語をすかさず調べるなど熱心である。



### ▶ 実家は綏芬河(すいふんが)に

現在両親が住む綏芬河市は省都ハルビンから東へ500km程、ロシアのウラジオストックまで230kmの国境の町である。この地域は古くからロシアとの国境(辺境)貿易が盛んで2004年の第3四半期には全省の対ロシア貿易額の56%をあげ、これは全中国の対ロシア貿易額全体の10%にあたった。黒竜江省からは木材、ロシアからは食料品などが主な輸出入品目である。「こうした貿易が盛んに行われるのも中国とロシアが友好関係にあるからです」という王さんの言葉が印象に残った。



ハルビン市内にはいくつもの欧風建築が残っている

## NRCニュース

### 「日欧パートナーシップ・プロジェクト 北海道プログラム」開催

7月13日(水)、(社)滝川国際交流協会、(財)日本国際交流センター、欧州委員会などいっしょに国際シンポジウム「市民交流時代における地域主導の国際協力と交流を考える」を札幌市で開催した。前日の12日(火)には滝川市で同様のワークショップを行った。

パネル・ディスカッションには早くから地域レベルでの国際協力活動が盛んな英国、イタリア、オランダの団体の代表と、アフリカ・マラウィからの研修員を受け入れて成功している滝川市の田村市長が活動内容を発表した。

それに先だち、基調講演をした、「リンクス・ジャパン」(英国)のフリーダ・パービスさんは、日本の市民活動の高まりを受けて他国の市民団体などと協力・交流して途上国との交流を進めることや、活動のための社会的企業体を立ち上げることなど豊富な経験を語った。

### 北海道海外研修員来道、研修開始(6・7月)

北方圏センターが北海道から受託して実施している、平成17年度北海道海外研修員が来道した。

このうち、海外技術研修員はブラジルから2名、パラグアイとアルゼンチンから1名ずつの計4名で、6月12日に来札した後、約3週間の日本語研修を経て7月より札幌市内の企業などで薬学、ホテル業などの技術研修に励んでいる。

ロシア・サハリン州からの通訳員養成研修生1名が7月6日、中国・黒竜江省からの協力交流研修員1名が同7日に来札し、それぞれ日口通訳、経済交流の研修を始めている。技術研修員と通訳員養成研修生は来年3月末まで、協力交流研修員は本年11月下旬まで滞在し、専門技術の取得だけでなく、各地の見学や市民との交流などを通して、北海道への理解を深める予定である。(国際協力部)

### 北方圏センターの「カルチャーナイト」(7月22日)

文化施設などを夜間開放し、各施設の持ち味を生かして楽しむという「カルチャーナイト2005」が札幌市内58の施設で実施された。昨年に続いて参加した北方圏センターは午後9時まで開館、「世界のひとと話そう、世界のひとと遊ぼう」をテーマに市民との国際交流行事としてプログラムを組み、午後5時半、セネガルのパーカッション、マドゥウ・ローさんの力強いアフリカン・ドラムの音で開会。JICA札幌や、北海道の研修員、市内在住の留学生などによる各国の遊びやゲームの紹介、研修員による自国紹介を同時通訳で聞く国際会議体験、世界の郵便切手を使ってのしおり作りなど、家族連れなど大勢の市民が楽しんだ。(調査研究部)



北海道海外技術研修員等とゲームに興じる子供たち